



## —— 人みな師なり —— のコーナー



先日の7/3(土)、4(日)に「西三河掃除に学ぶ会」が主催する『第6回 日間賀島大会』が行われました。日間賀島のすべての公共施設のトイレを掃除するという目的で、全国から約150名の方々が参加して行われる一大イベントであり、この大会にかける学ぶ会のメンバーの意気込みは並大抵のものではありませんでした。

今回私は大会前夜の二次会の盛り上げ役と当日の司会という大役を任されてしまいました。二次会の盛り上げ役というのは要するに「テクアで毎年やっている新年会のようにやりなさい」という指令で、これには本当に困惑してしまいました。慣れたメンバーの中では簡単にやれても、全国から掃除にこられる、人格的にも行動的にもすばらしい方々にいつもの“仕掛け”をやってしまって本当にダイジョーブなのか？というプレッシャーに襲われたのです。

そしてこの任務をこなすにはどうしても自分の気質では足りない、欠けたパズルの最後の一片のような、開かない扉のマスターキーのような存在が必要だと強く感じました。そこで、3ヵ月で岐阜の経営コンサルタントの会社を辞めてしまった、「社長！これからは武道ですよー!!」といいながらゲームセンターでナンパしている、現在名大の大学院に通っているバイトの宮脇君に白羽の矢を立てたのです。

「社長！僕は日間賀島のボランティアで何の役目をすればいいのですか？」と彼はあどけない瞳で聞いてきました。

私は「猿をしてくれ！」とだけ言いました。一瞬空気が止まりましたが、それで彼はすべてを悟りました。彼は内面にはとても大切にしているプライドを持っているので、本当は「日間賀島にお客様がたくさん来られるので、その方々のお疲れを取ってさしあげられるような楽しい人間関係を、君の持ち前の明るさで構築してくれ！」とでもいべき所だったかもしれませんが、私は彼と彼の能力を本当に信頼していて、彼も私を信頼してくれているからこそ言える一言だったと思います。そして宴会が始まり、われわれは密かに隠し持っていた宴会バッグを二次会場に持ち込み、いつもの調子で仕掛けました。大成功でした。

あっという間に人格者の方々があひるさんや黒タイツのあぶないおじさんや色っぽいナースのお姉さんに変身し、ステージ上と狭しとあふれかえりました。そしてその盛り上がりすべて仕切っていたのが、ピョンピョンと跳ねまくる日間賀猿役の宮脇君でした。

宴会が終わってからたくさんの方から絶賛され「うちにも一匹この猿欲しい」「ゆずってくれんか」と何度もお願いされました。

さて掃除当日の朝、二日酔いで割れるような頭に次のプレッシャーが襲ってきました。今回私が司会をするようになったのは西三河の掃除のドン、竹中電機の竹中会長の指示だったのですが、それは

“人間のすべての面をさらけ出し、肯定し、なおかつ人として本当に大切なことを次の世代に勇気と喜びをもって伝えていく”というメッセージをあなたが伝えなさい”ということだと理解していたので、何とか前夜のばか騒ぎに見合うだけの品格と重みのある会にしなくては、と思いついにガチガチになり、なかなか思うようにしゃべれませんでした。

しかし途中から掃除の時間となり、掃除をすることで自分をしっかり落ち着かせることができました。そして後半の司会は司会者らしくしゃべるのではなく、人になんと思われようが自分らしくしゃべろうと心に決め開き直すことで何とかやり遂げることができました。

感情的にも道徳的にも振れ幅の広い二日間でしたので、終わってから当分頭がボーとしていました。気持ちが高ぶっていたせいか、なかなか寝付けませんでした。次の日、宴会グッズを洗濯していたら、あひるの着ぐるみが1着見当たらないことに気づきました。「気に入ってしまってどうしても欲しくなってしまった人がいたのかな？」と想像したらおかしくて笑えてしまって、おかげで熟睡できるようになりました。

なにはともあれ宮脇君、君が今回の立役者!! キーマスター!! ワンピース!! モンチッチ!!! 今月の私の師!! です。

お疲れ様でした。またど〜ぞ。

【羽原 篤史】